

景 気 動 向 調 査

(第 147 回)

2007 年 7 月 ~ 9 月 期 実 績

2007 年 10 月 ~ 12 月 期 予 測

株式会社 北日本銀行

経 営 企 画 部

目 次

調査要領	1
概 況	2
1．県内景況感について	4
2．業況について		
(1) 売上高または出荷高	5
(2) 生産高または仕入高	6
(3) 在 庫	7
(4) 収 益	8
(5) 販売価格・仕入価格	9
3．設備投資の動向について		
(1) 設備投資の実施状況	10
(2) 設備投資の目的	11
4．資金繰り状況について		
(1) 資金繰り状況	12
(2) 現金・預金	13
(3) 金融機関借入	13
(4) 販売代金回収期間	14
(5) 仕入代金決済期間	14
5．経営上の問題点について	15

調 査 要 領

この報告は、岩手県内企業各社のご協力をもとに、下記の要領により景気動向の調査を行ったものです。

記

- 1．実施時期 2007年9月下旬～2007年10月上旬
- 2．調査対象期間 2007年7月～9月期実績
2007年10～12月期予測
- 3．調査の方法 郵送による無記名のアンケート方式（年間4回）
- 4．対象先 岩手県内企業 400社
- 5．回答数 209通（回答率 52.25 %）
<内訳> 製造業 70社 建設業 48社 卸・小売業 91社
- 6．調査の主要項目 (1) 業況について
(2) 設備投資の動向について
(3) 資金繰りの状況について
(4) 当面する経営上の問題点について

以 上

【本文用語説明】

「増加」～グラフ上の「増加」および「やや増加」

「減少」～グラフ上の「減少」および「やや減少」

DI（ディフュージョン・インデックス）～

「景気動向指数」のことで、各項目について「増加」（増加およびやや増加）と回答した企業の比率から「減少」（減少およびやや減少）と回答した企業の比率を減じた数値である。この値が「0」の場合は、「増加」と「減少」が等しいことを示し、プラスとなるほど「増加」が多く、マイナスになるほど「減少」が多いことを意味する。

（注）「上昇・低下」「楽になった・苦しくなった」「長くなった・短くなった」の回答についても同様に読み替える。

ただし、「販売代金回収期間」については、「短くなった」-「長くなった」で算出している。

概 況

～ 景況感回復の動き弱まる ～

2007年7～9月期の岩手県内企業の景況感D Iは、全体で 61.5 と前期 51.4 より 10.1 ポイントほど下向きとなった。

先期調査で僅かながらも上向きとなった景況感は今期下向きに転じ、緩やかな持ち直しの動きに懸念がもたれる結果となっている。次期見通しでは景況感D Iが 48.3 と上向き見通しとなっているが、原油高ほか先行きに不透明な要素もみられることから、今後の動向を注視したい。

項目別に前回調査時（2007年4～6月期実績）と比較してみると、今回は多くの項目で下向いており、持ち直しの動きがペースダウンしていることが窺える。特に、県内の景気改善の動きを牽引してきた製造業が、景況感、売上高、生産、収益、設備投資、資金繰り等で下向きとなっており、前期までとの相違が顕著に表れている。建設業、卸・小売業を含め、来期以降の業種間での改善の動向が注目される。

国内経済をみると、企業収益が高水準を維持して、設備投資は製造業を中止に引き続き増加基調で推移している。雇用・所得環境の緩やかな改善が続いていることから、個人消費も底堅い動きとなっており、内需を背景として緩やかな回復の動きが続いている。しかし、鉱工業生産は一部で在庫調整の動きがみられるなど横ばいで推移しており、住宅建設が改正建築基準法施行の影響もあって弱含みの動きとなっている。さらに、公共投資は総じて低調で、企業倒産も前年に比較して増加傾向となるなど、一部では回復ペースの鈍化もみられる。

一方、最近の岩手県内経済をみると、公共投資は低水準ではあるものの請負額が前年を上回って推移している。鉱工業生産は電子部品類、郵送機械等で好調を継続しているが、全体的にはバラツキがみられる。個人消費は8月の猛暑から一部で持ち直しの動きもみられたが、総じて弱含みの状況が続いている。また、設備投資は大型投資が一巡したこともあり増勢の動きが弱まり、住宅建設は持屋、貸家とも低調な推移となっている。このように岩手県内景気は全体としては緩やかな回復基調の推移となっているが、一部では厳しい状況が続き、回復感が広がるまでには至っていない。

<参考>

岩手県内企業「景況感D I」ワーストランキング

	調査回次	対象期間	景況感D I
1	第 124 回	01年 10～12月	91.2
2	第 109 回	98年 1～3月	90.6
3	第 111 回	98年 7～9月	90.0
4	第 108 回	97年 10～12月	89.7
5	第 110 回	98年 4～6月	89.3

(1971(昭和46)年以降)

1. 県内景況感について

全体のD Iは、今回調査では 61.5 と前期比 10.1 ポイント下降し、9 期振りに 60 台となっている。各業種別のD Iをみると、建設業が 5.3 ポイント、卸・小売業が 4.3 ポイント下降したほか、製造業が 22.0 ポイントと大きく下降しており、全体D Iを押し下げる結果となっている。

10～12 月期見通しは、製造業と建設業で 10 ポイント以上上昇する見通しとなるなど、全業種で上向き見通しとなっている。

2. 業況について

(1) 売上高または出荷高

D Iが、卸・小売業は上昇したが、製造業と建設業が下降しており、なかでも製造業は 5 期振りにマイナスの水準となっている。

(2) 生産高または仕入高

製造業の生産高は下向いたがプラスの水準を維持しており、卸・小売業の仕入高は 5 期振りに上向きとなっている。

(3) 在庫

卸・小売業の商品在庫は上向きとなっているが、製造業の製品在庫は大きく下向きマイナスの水準となっている。在庫水準では、総体的に大きな変動はみられない。

(4) 収益

卸・小売業が上向いたのに対し、製造業が 24.3 ポイントと大きく下向いており、全体でも 3 期連続で下向きとなった。10～12 月の見通しでは、建設業が横ばいで、製造業と卸・小売業は上向いている。

(5) 販売価格・仕入価格

D Iは、販売価格が下向き再びマイナスの水準となっており、仕入価格は横ばいで 39.7 とプラスの高い水準を維持している。

3. 設備投資の動向について

全体でみると設備投資を「実施した」企業は 20.7% と下向きとなっている。業種別では、卸・小売業だけが上向いている。

なお、設備投資の目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」「生産・販売能力の増加」の割合が引続き高くなっている。

4. 資金繰り状況について

全業種で下向きとなっているが、なかでも製造業は 12.7 ポイントと大きく下向いている。来期の見通しについても、建設業を筆頭に全業種で下向き予想となっている。

5. 経営上の問題点について

上位の 4 項目、「売上・受注不振」「過当競争」「収益不振」「販売価格安」は変わっていないが、「原材料・仕入価格高」が製造業で比率が高くトップとなっている。

1. 県内景況感について

～ 9期振りにD I △60台へ ～

【7～9月期の実績】 県内の景況感（前年同期比）についてみると、全業種では「良い」と答えた企業が3.4%（前期4.1%）、「悪い」が64.9%（同55.5%）で、D Iは△61.5（同△51.4）と、10.1ポイント下降した。

業種別の景況感（D I）をみると、**製造業**が△64.3（同△42.3）、**建設業**が△56.2（同△50.9）、**卸・小売業**が△62.3（同△58.0）と全業種で下降しており、製造業は22.0ポイントと大きく下降している。

【10～12月期の見通し】 10～12月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「良くなる」とみる企業が5.3%、「悪くなる」が53.6%であることから、D Iは △48.3となり、7～9月期実績と比較すると指標は13.2ポイント上向く。

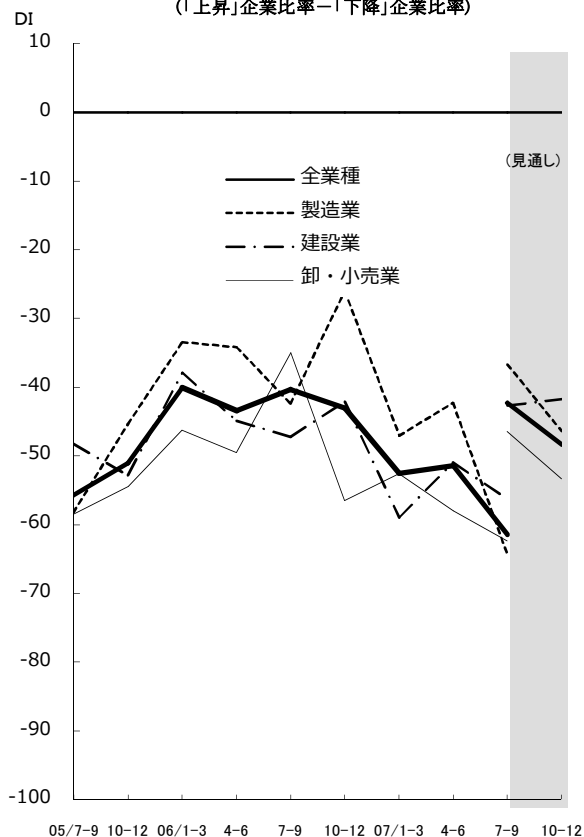
業種別にみると、**製造業**が△46.4、**建設業**が△41.7、**卸・小売業**が△53.3となっており、7～9月期実績と比較して全業種で上向く見通しの回答結果だった。

県内景況感(前年同期比)

		（％）					D I
	期	良い	やや良	不変	やや悪	悪い	
全業種	7～9月 (実績)	0.0	3.4	31.7	40.9	24.0	-61.5
	10～12月 (見通し)	0.0	5.3	41.1	33.3	20.3	-48.3
（製造業）	7～9月 (実績)	0.0	1.4	32.9	48.6	17.1	-64.3
	10～12月 (見通し)	0.0	5.8	42.0	37.7	14.5	-46.4
（建設業）	7～9月 (実績)	0.0	6.3	31.2	35.4	27.1	-56.2
	10～12月 (見通し)	0.0	8.3	41.7	25.0	25.0	-41.7
（卸・小売業）	7～9月 (実績)	0.0	3.3	31.1	37.8	27.8	-62.3
	10～12月 (見通し)	0.0	3.3	40.1	34.4	22.2	-53.3

県内景況感(前年同期比)

(「上昇」企業比率-「下降」企業比率)



2. 業況について

(1) 売上高または出荷高

～ 製造業のD I 5期振りにマイナスへ ～

[7～9月期の実績] 売上・出荷実績(前年同期比)をみると、全業種では「増加」と答えた企業が26.8%(前期32.1%)、「減少」が45.5%(同44.8%)となり、D Iは18.7(同12.7)と6.0ポイント下降し4期連続で下向いた。

業種別にD Iをみると、製造業1.4(前期16.9)、建設業24.9(同8.1)、卸・小売業28.6(同35.6)となっており、卸・小売業が上昇したのに対し、製造業と建設業が大きく下降している。

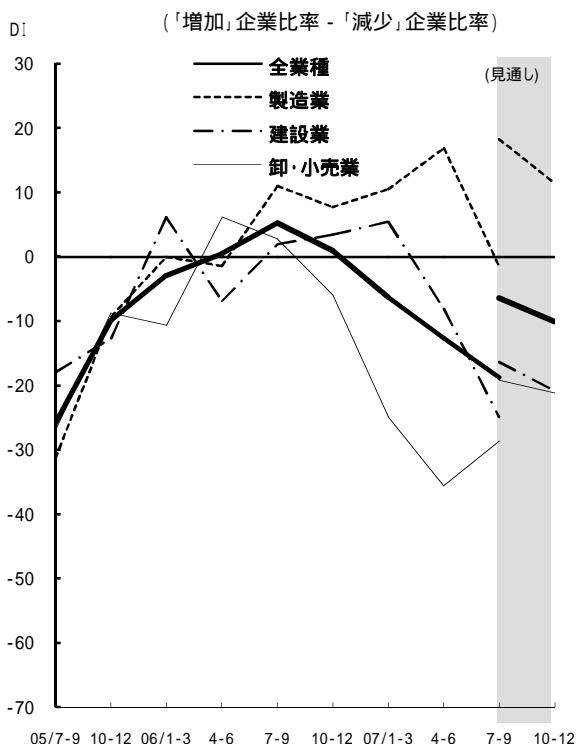
[10～12月期の見通し] 10～12月期見通し(前年同期比)をみると、全業種では「増加」とみる企業が25.5%、「減少」が35.6%であることからD Iは10.1で、7～9月期実績と比較して8.6ポイント上向き予想となっている。

業種別にD Iをみると、製造業で11.4、建設業で20.8、卸・小売業で21.2となっており、7～9月期実績と比較して全業種で上向き見通しとなっており、製造業では12.8ポイント上向きプラスの水準となっている。

売上高または出荷高(前年同期比)

		D I (%)					D I
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	7～9月(実績)	7.7	19.1	27.7	33.5	12.0	-18.7
	10～12月(見通し)	5.3	20.2	38.9	26.9	8.7	-10.1
(製造業)	7～9月(実績)	12.9	24.3	24.2	30.0	8.6	-1.4
	10～12月(見通し)	7.1	31.4	34.4	21.4	5.7	11.4
(建設業)	7～9月(実績)	4.2	18.8	29.1	33.3	14.6	-24.9
	10～12月(見通し)	6.3	16.7	33.2	29.2	14.6	-20.8
(卸・小売業)	7～9月(実績)	5.5	15.4	29.6	36.3	13.2	-28.6
	10～12月(見通し)	3.3	13.3	45.6	30.0	7.8	-21.2

売上・出荷動向(前年同期比)



(2) 生産高または仕入高

～ 卸・小売業の仕入高5期振りに上向く ～

[7～9月期の実績] 生産高・仕入高実績（前年同期比）をみると、**製造業**（生産高）では「増加」と答えた企業が39.1%（前期44.2%）、「減少」が36.2%（同25.7%）で、DIは2.9（同18.5）と15.6ポイント下向きとなっている。

卸・小売業（仕入高）では、「増加」と答えた企業は28.4%（前期23.2%）、「減少」が43.2%（同52.5%）で、DIは△14.8（同△29.3）と5期振りに上向いている。

[10～12月期の見通し] 10～12月期見通し（前年同期比）をみると、**製造業**（生産高）については、「増加」と答えた企業が37.7%、「減少」が28.9%であることから、DIは8.8で、7～9月期実績と比較して5.9ポイント上向く見通しとなっている。

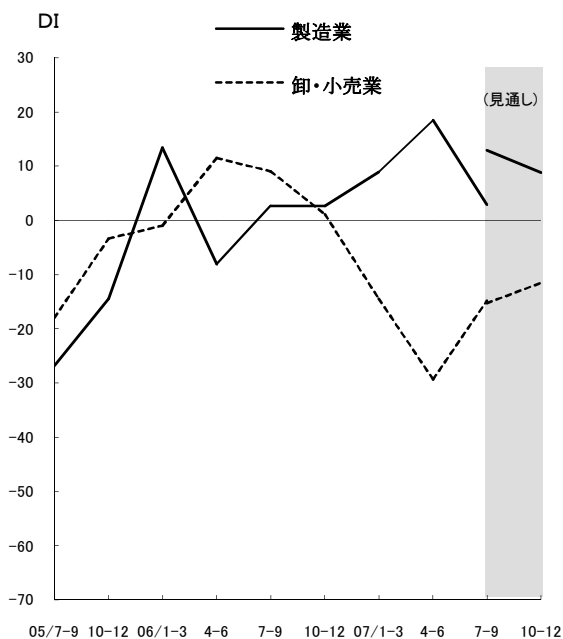
卸・小売業（仕入高）については、「増加」と答えた企業が20.7%、「減少」が32.2%であることから、DIは△11.5となり、7～9月期実績と比較して3.3ポイント上向く見通しとなっている。

生産高または仕入高(前年同期比)

		(%)					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
(製造業)	7～9月 (実績)	14.5	24.6	24.7	30.4	5.8	2.9
	10～12月 (見通し)	8.7	29.0	33.4	24.6	4.3	8.8
(卸・小売業)	7～9月 (実績)	4.5	23.9	28.4	33.0	10.2	-14.8
	10～12月 (見通し)	2.3	18.4	47.1	27.6	4.6	-11.5

生産・仕入動向(前年同期比)

(「増加」企業比率-「減少」企業比率)



(3) 在庫

～ 製造業の製品在庫下向く ～

[7～9月期の実績] 状況実績（前年同期比）をみると、製造業では、製
 が「増加」と答えた企業は14.7%（前期15.9%）、「減少」が29.4%（同13.0%）であること
 から、DIは△14.7（同2.9）となった。また、原材料については、「過大」が14.3
 %（同12.9%）、「」が77.8%（同79.0%）、「不足」が7.9%（同8.1%）である。

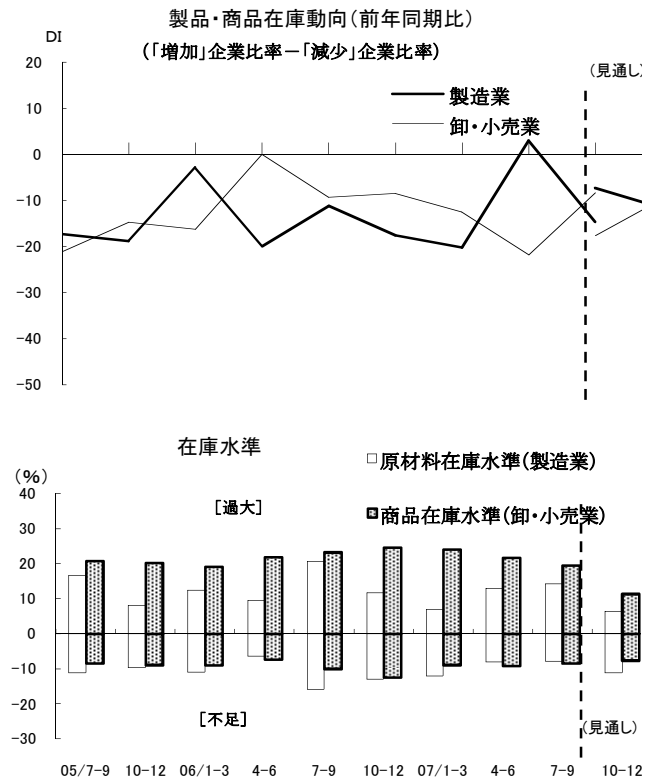
卸・小売業の は、「増加」と答えた企業が18.1%（前期12.5%）、「減少」26.5%
 （同34.4%）であることから、DIは△8.4（同△21.9）となった。また、 の に
 ついては、「過大」が19.5%（同21.8%）、「」が72.0%（同69.0%）、「不足」が8.5%
 （同9.2%）である。

[10～12月期の見通し] 10～12月期見通し（前年同期比）をみると、製造業の製
 は、「増加」とみる企業が11.8%、「減少」が23.5%で、DIは△11.7となっている。また、
 同く原材料については「過大」とみる企業が6.3%、「」が82.6%、「不足」
 が11.1%である。

卸・小売業の については、「増加」とみる企業が9.7%、「減少」が19.5%である
 ことから、DIは△9.8となっている。また、同く の については「過大」とみ
 る企業が11.4%、「」が81.0%、「不足」が7.6%である。

製品・商品在庫(前年同期比)

		（%）					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
（製造業）	7～9月 （実績）	0.0	14.7	55.9	27.9	1.5	-14.7
	10～12月 （見通し）	0.0	11.8	64.7	23.5	0.0	-11.7
（卸・小売業）	7～9月 （実績）	3.6	14.5	55.4	25.3	1.2	-8.4
	10～12月 （見通し）	1.2	8.5	70.8	18.3	1.2	-9.8



(4) 収 益

～ 3期連続で下向く ～

[7～9月期の実績] 収益 向実績（前年同期比）をみると、全業種では「増加」と答えた企業が22.3%（前期24.1%）、「減少」が46.1%（同45.5%）であり、D Iは△23.8（同△21.4）となり3期 続で下向いている。

業種別にD Iをみると、**製造業△17.3**（前期7.0）、**建設業△31.2**（同△20.8）、**卸・小売業△25.1**（同△41.5）となり、製造業が24.3ポイントと大きく下向いているのに し、卸・小売業が16.4ポイント上向いている。

[10～12月期の見通し] 10～12月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「増加」とみる企業が21.0%、「減少」とみる企業が39.5%であることから、D Iは△18.5で、7～9月期実績と比較して5.3ポイント上向く見通し。

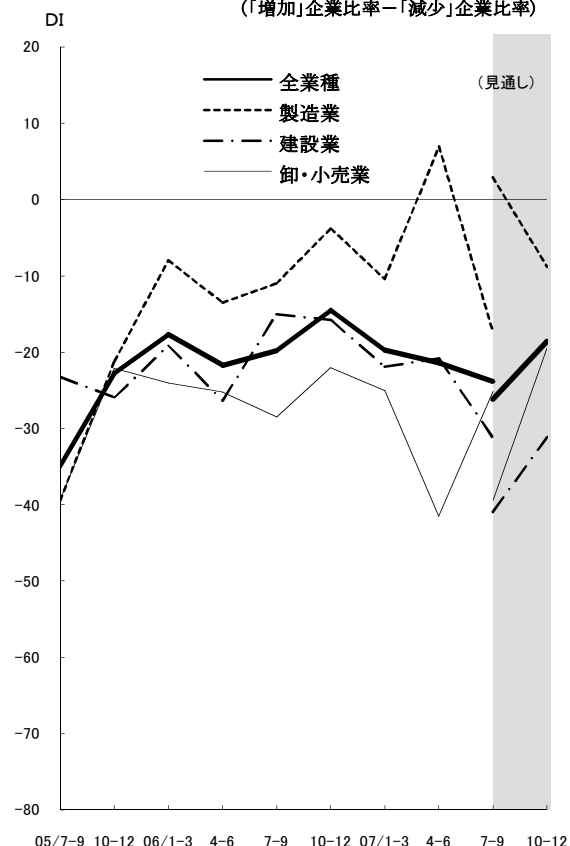
業種別にD Iをみると、**製造業は△8.8**、**建設業△31.1**、**卸・小売業△19.5**であり、7～9月期実績と比較して、製造業と卸・小売業で上向く見通しとなっている。

収 益(前年同期比)

		(%)					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
全業種	7～9月 (実績)	3.0	19.3	31.6	32.7	13.4	-23.8
	10～12月 (見通し)	0.5	20.5	39.5	30.5	9.0	-18.5
(製造業)	7～9月 (実績)	5.8	23.2	24.7	33.3	13.0	-17.3
	10～12月 (見通し)	1.5	26.5	35.2	30.9	5.9	-8.8
(建設業)	7～9月 (実績)	2.2	13.3	37.8	31.1	15.6	-31.2
	10～12月 (見通し)	0.0	15.6	37.7	31.1	15.6	-31.1
(卸・小売業)	7～9月 (実績)	1.1	19.3	34.1	33.0	12.5	-25.1
	10～12月 (見通し)	0.0	18.4	43.7	29.9	8.0	-19.5

収益動向(前年同期比)

(「増加」企業比率-「減少」企業比率)



(5) 販売価格・仕入価格

～ 仕入価格のDIはプラスの高い水準で推移 ～

[7～9月期の実績] 販売価格（前年同期比）をみると、全業種では「上」と答えた企業が17.4%（前期22.7%）、「下」が22.2%（同22.3%）であることから、DIは△4.8（同0.4）と下向きとなった。

仕入価格（前年同期比）をみると、全業種では「上」と答えた企業が48.3%（前期46.8%）、「下」が8.6%（同6.9%）であることから、DIは39.7（同39.9）と高い水準で推移している。

[10～12月期の見通し] 10～12月期見通し（前年同期比）をみると、販売価格については「上」とみる企業が20.8%、「下」とみる企業が18.4%であることから、DIは2.4で、7～9月期実績と比較して上向く見通しとなっている。

仕入価格については、「上」とみる企業が45.4%、「下」とみる企業が6.3%であることからDIは39.1となり、7～9月期からは高い見通しとなっている。

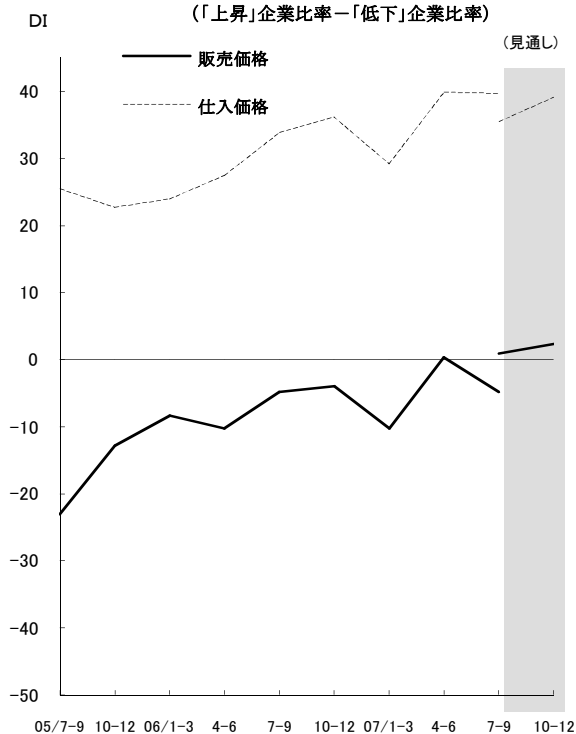
販売価格(前年同期比)

		（%）					DI
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	
全業種	7～9月 (実績)	1.0	16.4	60.4	15.9	6.3	-4.8
	10～12月 (見通し)	1.0	19.8	60.8	15.0	3.4	2.4

仕入価格(前年同期比)

		（%）					DI
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	
全業種	7～9月 (実績)	6.8	41.5	43.1	7.2	1.4	39.7
	10～12月 (見通し)	7.2	38.2	48.3	5.8	0.5	39.1

価格動向(前年同期比)
(「上昇」企業比率-「低下」企業比率)



3.設備投資の動向について

(1) 設備投資の実施状況

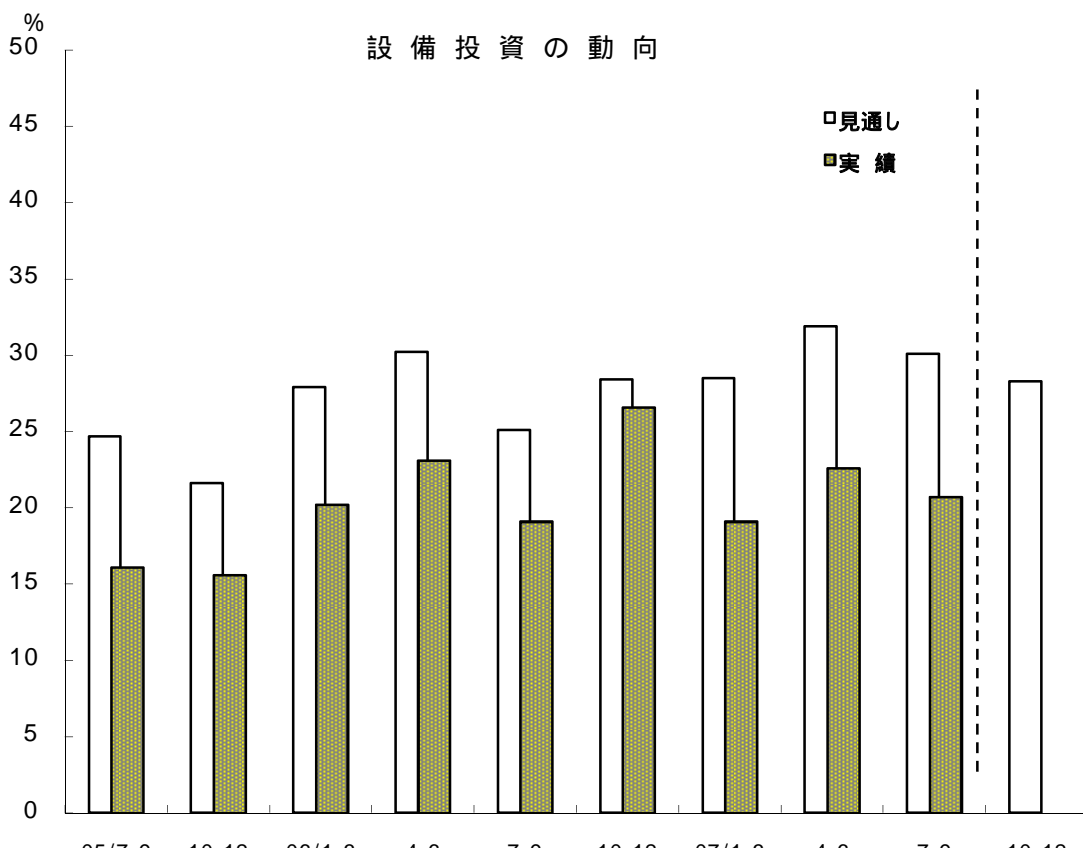
～ 製造業と建設業で下向く ～

[7～9月期の実績] 設備投資の実施状況をみると、全業種では「実施した」および「計画を縮小して実施した」と答えた企業は20.7%（前期22.6%）で、下向きとなっている。

これを業種別にみると、製造業が29.0%（前期37.1%）、建設業10.6%（同12.7%）、卸・小売業19.5%（同17.0%）と、卸・小売業だけが上向いている。

[10～12月期の見通し] 今後3ヵ月の設備投資について全業種では「具体的な計画がある」と答えた企業は全体で14.4%（前期13.9%）、「計画はあるが具体化していない」は13.9%（同16.2%）、「計画はない」は71.7%（同69.9%）であった。「計画あり」は合計28.3%（同30.1%）と前期予想より僅かに下向く見通しとなっている。

業種別にみると、「具体的な計画がある」および「計画はあるが具体化していない」と答えた企業は、製造業で28.0%（前期39.4%）、建設業で21.2%（同22.9%）、卸・小売業で32.1%（同26.8%）と、卸・小売業だけが上向いている。



(2) 設備投資の目的

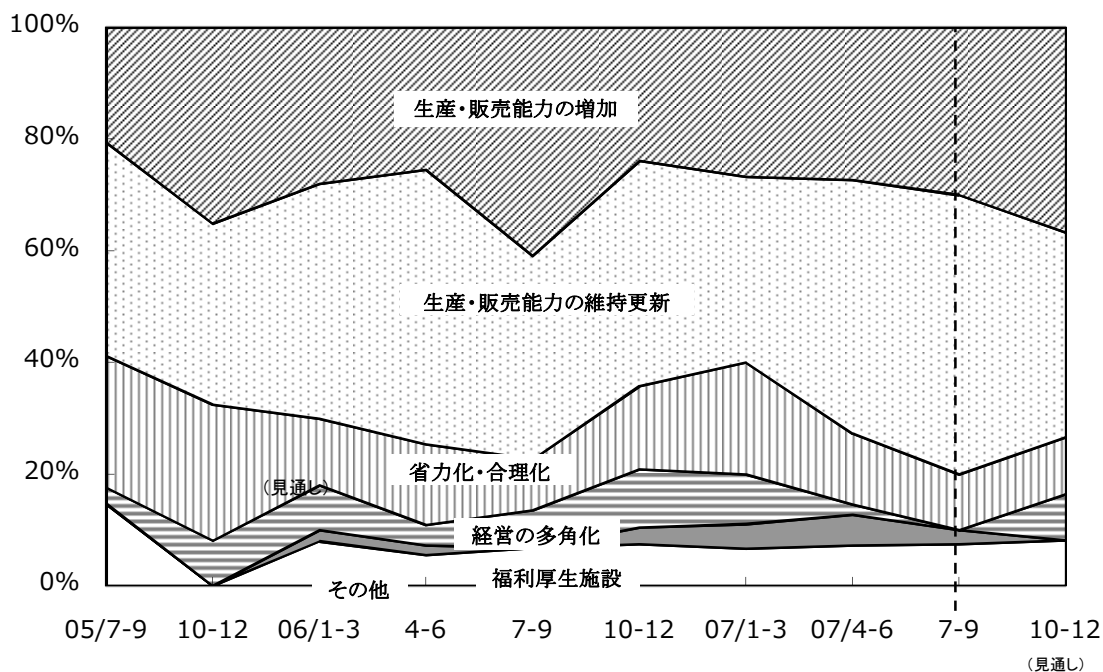
【7～9期の実績】 今回の調査で「設備投資を実施した」と答えた企業(20.7%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が50.0%（前期45.5%）の比率でトップとなり、以下、「生産・販売能力の増加」が30.0%（同27.3%）で2位、「省力化・合理化」が10.0%（同12.7%）で3位となっている。

業種別にみると、**製造業と建設業**で「生産・販売能力の維持更新」がトップとなり、**卸・小売業**では「生産・販売能力の増加」も同率でトップとなっている。「省力化・合理化」が上位で続いているが、建設業では「その他」が同率で2位となっている。

【10～12月期の見通し】 今後3ヵ月の設備投資について、「計画あり」と答えた企業(28.3%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」と「生産・販売能力の増加」が36.7%でトップとなり、以下、「省力化・合理化」10.2%、「経営の多角化」8.2%の順となっている。

業種別では、**製造業と建設業**で「生産・販売能力の維持更新」がトップとなっているが、**卸・小売業**では「生産・販売能力の増加」がトップとなっている。なお、建設業では「その他」が22.2%で高い比率となっている。

設 備 投 資 の 目 的



4. 資金繰り状況について

(1) 資金繰り状況

～ 全業種で下向く ～

[7～9月期の実績] 資金繰り状況（前期比）は、全業種では、「楽になった」とする企業が14.5%（前期17.3%）、「苦しくなった」が32.3%（同29.1%）であることから、D Iは△17.8（同△11.8）と下向いている。

業種別にD Iをみると、**製造業**が△12.8（前期△0.1）、**建設業**が△21.7（同△18.3）、**卸・小売業**が△19.8（同△17.0）で、全業種で下向きとなっている。特に製造業では12.7ポイント下向いている。

[10～12月期の見通し] 10～12月期の見通し（当期比）をみると、全業種では「楽になる」とみる企業が11.3%、「苦しくなる」が32.7%で、D Iは△21.4となり、7～9月期実績（△17.8）と比較して、下向く見通しとなっている。

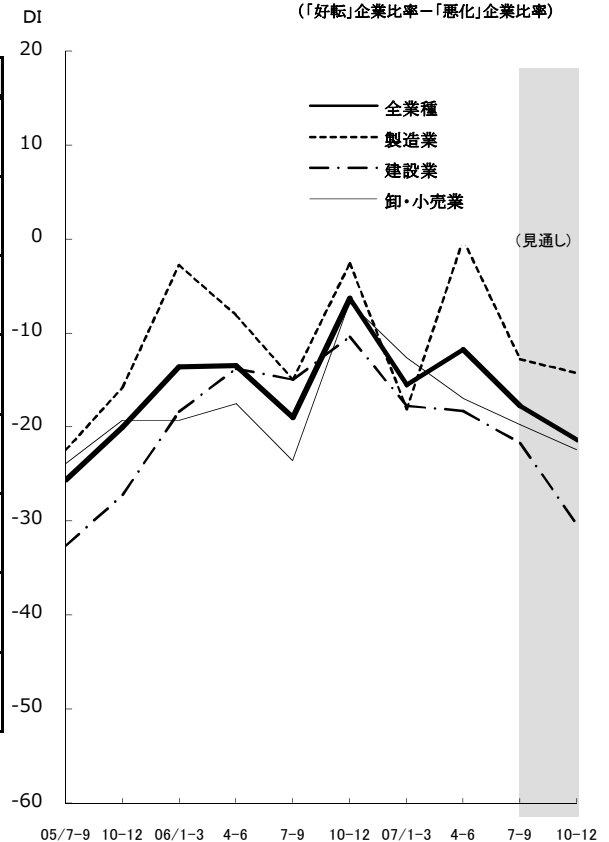
業種別にD Iをみると、**製造業** △14.3、**建設業** △30.4、**卸・小売業** △22.4となっており、7～9月期実績と比較して、全業種で下向く予想となっている。

資金繰り(前期比)

	期	（%）					D I
		楽	やや楽	不変	やや苦	苦	
全業種	7～9月 （実績）	1.9	12.6	53.2	22.2	10.1	-17.8
	10～12月 （見通し）	1.5	9.8	56.0	24.4	8.3	-21.4
（製造業）	7～9月 （実績）	5.7	12.9	50.0	21.4	10.0	-12.8
	10～12月 （見通し）	4.3	10.0	57.1	20.0	8.6	-14.3
（建設業）	7～9月 （実績）	0.0	17.4	43.5	23.9	15.2	-21.7
	10～12月 （見通し）	0.0	13.0	43.6	30.4	13.0	-30.4
（卸・小売業）	7～9月 （実績）	0.0	9.9	60.4	22.0	7.7	-19.8
	10～12月 （見通し）	0.0	7.9	61.8	24.7	5.6	-22.4

資金繰り動向(前期比)

（「好転」企業比率－「悪化」企業比率）



(2) 現金・預金

[7～9月期の実績] 現金・預金（前期比）については、「増加した」と答えた企業が11.1%（前期14.9%）、「減少した」が37.8%（同33.9%）であることから、D Iは△26.7（同△19.0）と下向きとなった。

[10～12月期の見通し] 10～12月期の見通し（当期比）をみると、「増加する」とみる企業が7.9%、「減少する」が38.9%であることから、D Iは△31.0（当期△26.7）と下向き予想となっている。

(3) 金融機関借入

[7～9月期の実績] 金融機関借入金（前期比）については、「増加した」と答えた企業が18.8%（前期16.0%）、「減少した」が30.0%（同33.0%）であることから、D Iは△11.2%（同△17.0%）と上向きとなった。

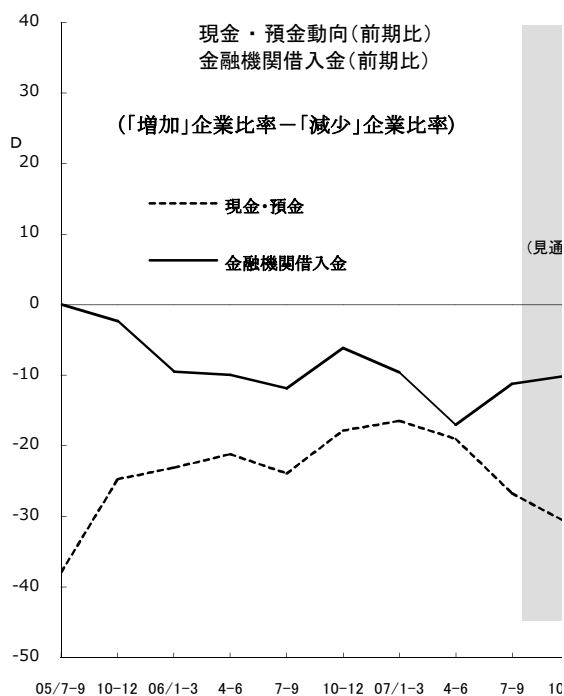
[10～12月期の見通し] 10～12月期の見通し（当期比）をみると、「増加する」とみる企業が16.0%、「減少する」が26.0%であることから、D Iは△10.0（当期△11.2）と僅かながら上向き予想となっている。

現金・預金(前期比)

		（%）					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
全業種	7～9月 (実績)	1.9	9.2	51.1	25.2	12.6	-26.7
	10～12月 (見通し)	1.0	6.9	53.2	30.0	8.9	-31.0

金融機関借入金(前期比)

		（%）					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
全業種	7～9月 (実績)	2.5	16.3	51.2	25.1	4.9	-11.2
	10～12月 (見通し)	4.0	12.0	58.0	23.0	3.0	-10.0



(4) 販売代金回収期間

【7～9月期の実績】 販売代金回収期間（前期比）については、「短くなった」とする企業が4.4%（前期2.8%）、「長くなった」が13.1%（同10.0%）であることから、D Iは△8.7（同△7.2）となった。また、82.5%（同87.2%）の企業は「変わらない」としている。

【10～12月期の見通し】 10～12月期の見通し（当期比）をみると、「短くなる」とみる企業が2.9%、「長くなる」が11.8%であることから、D Iは△8.9（当期△8.7）となる。また、85.3%の企業は「変わらない」とみている。

(5) 仕入代金決済期間

【7～9月期の実績】 仕入代金決済期間（前期比）については、「長くなった」とする企業が1.5%（前期0.9%）、「短くなった」が3.4%（同4.5%）であることから、D Iは△1.9（同△3.6）となった。また、95.1%（同94.6%）の企業は「変わらない」としている。

【10～12月期の見通し】 10～12月期の見通し（当期比）をみると、「長くなる」とみる企業が2.0%、「短くなる」が3.5%であることから、D Iは△1.5（当期△1.9）となる。また、94.5%の企業は「変わらない」とみている。

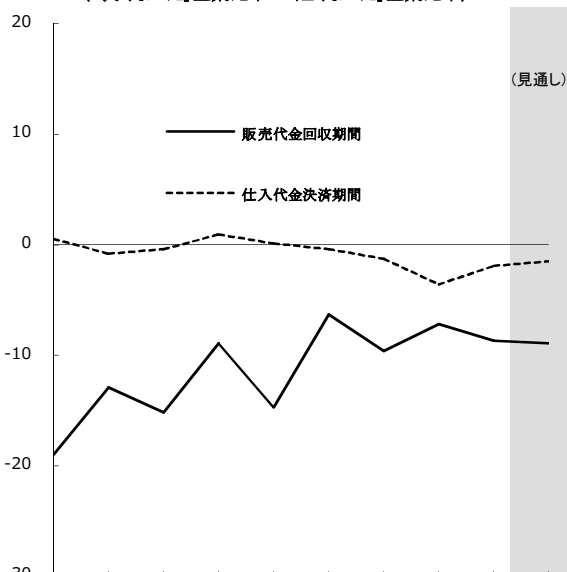
販売代金回収期間(前期比)

		（％）					DI
	期	短く	やや短	不変	やや長	長く	
全業種	7～9月 (実績)	0.0	4.4	82.5	12.1	1.0	-8.7
	10～12月 (見通し)	0.0	2.9	85.3	10.8	1.0	-8.9

仕入代金決済期間(前期比)

		（％）					DI
	期	長く	やや長	不変	やや短	短く	
全業種	7～9月 (実績)	0.5	1.0	95.1	2.9	0.5	-1.9
	10～12月 (見通し)	0.0	2.0	94.5	3.0	0.5	-1.5

販売代金回収期間動向(前期比)
 (「短くなった」企業比率-「長くなった」企業比率)
 仕入代金決済期間動向(前期比)
 (「長くなった」企業比率-「短くなった」企業比率)



5. 経営上の問題点について

～ 製造業では「原材料・仕入価格高」が単独トップ ～

7～9月期における経営上の問題点をみると、全業種では「売上・受注不振」26.9%（前期28.6%）、「過当競争」15.5%（同15.8%）、「収益不振」15.0%（同14.6%）、「原材料・仕入価格高」14.0%（同13.3%）「販売価格安」12.2%（同11.1%）、の順となり、上位の項目に大きな変化はなかった。

業種別に上位3項目をみると、製造業では①「原材料・仕入価格高」25.6%（前期25.0%）がトップとなり、②「受注不振」24.0%（同25.0%）、③「販売価格安」12.4%の順。建設業では①「受注不振」23.9%（同31.9%）と「過当競争」23.9%（同24.2%）が同率でトップ、③「収益不振」21.6%の順。卸・小売業では①「売上不振」31.7%（同30.6%）②「過当競争」17.4%（同17.2%）、③「収益不振」15.0%の順となっている。

いずれの業種とも「売上・受注不振」「過当競争」「収益不振」「販売価格安」が上位を占めているが、製造業では「原材料・仕入価格高」が単独トップとなり、建設業では「過当競争」の比率が高くなっていることが目を引く。

